

『大日本国法華経験記』における

罪業意識と『摩訶止観』

文学研究科

言語文化学専攻 国語国文学専修

二〇二五年度

BBC24006

野^の坂^{さか} 咲^{さき}花^か

目次

はじめに	1
第一章 『摩訶止観』卷四上の教説内容	6
第二章 『摩訶止観』卷四上「逆流の十心」の影響	10
第一節 先行研究の再考	10
――第二四話「頼真法師」・第二五話「叡山西塔春命」の検討	
第二節 破戒僧の描写への援用	14
――第二九話「定法師別当法師」の検討	
第三節 罪業に関わる評語にみえる影響	15
――第三七話「六波羅密寺定読師康仙法師」の検討	
第四節 「逆流の十心」の受容の様相	19
第三章 『摩訶止観』卷四上「犯戒の相」の影響	25
――第四一話「嵯峨定照僧都」の検討	
第一節 第四一話における特異性	25
第二節 『法華経』薬王菩薩本事品における指燈供養との相違	28
第三節 『摩訶止観』卷四上「犯戒の相」の影響	30
――『大般涅槃経』との比較	
第四章 『法華験記』における罪業の記述と『摩訶止観』卷四上	37
第一節 罪業に関わる説話の背景	37
第二節 罪業への怖れと持戒の関連	39
おわりに	42